

学生生活をテーマとした交流型学生企画の成果と課題 ～学習支援サークルによるしゃべり場の企画を通して～

峯松明日香¹⁾、森 稼頭人²⁾、東 穂香³⁾、藤村沙樹⁴⁾、岡村瞭花⁴⁾、桐畑尚真¹⁾、
吉原 祥¹⁾、國見裕美⁵⁾、長町裕征⁵⁾、塩川奈々美⁶⁾、吉田 博⁶⁾

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1) 徳島大学理工学部 | 2) 徳島大学生物資源産業学部 |
| 3) 徳島大学総合科学部 | 4) 徳島大学医学部 |
| 5) 徳島大学附属図書館 | 6) 徳島大学高等教育研究センター |

1. はじめに

大学教育に求められるアクティブラーニングの推進や合理的配慮などに伴い、大学図書館の役割も常に変化し、教育への関わりがより強く求められるようになってきている。国立大学図書館協会では、「国立大学図書館機能の強化と革新に向けて～国立大学図書館協会ビジョン2025～」を掲げ、大学図書館の今後の取組に対する基本理念が示されている¹⁾。この中で、人と知識や情報、あるいは人同士のコミュニケーションの場を整備・提供し、学習・教育・研究・交流を通じた知の創出を促すことが述べられている。

徳島大学附属図書館においても、このような理念に呼応するようにラーニングコモンズが設置され、特に学生との協働を通して、徳島大学における学習支援活動の強化を推進してきた²⁾。このうち、徳島大学サポート系サークル「学びサポート企画部」は、図書館職員と協働して、2013年度より学習相談 Study Support Space(以下、SSS)を企画、運営している³⁾。SSSは、徳島大学生の学習に関する相談に対応することに加えて、相談に対応する教員や大学院生にとっても有意義な取組であることが示されている³⁾。学びサポート企画部は、履修相談などの学習に関連するイベントを図書館等で企画・開催しており、2022年度からは、学生と教職員による交流を通じた学びの場を創造する「しゃべり場」を開催している。

そこで、本発表では、2023年度に実施した「しゃべり場」について紹介するとともに、参加者アンケートを分析し、本企画の検証を行う。

2. 学びサポート企画部

学びサポート企画部は、「大学生の日々の学習における躓きに対して、学習支援を行うとともに、学習をするために必要な基本知識・技能を習得する機会を創ることで、大学生の学習スタイルの向上、改善を行う」という理念のもと、学生9名と図書館職員2名、教員2名(2023年11月7日現在)で活動している。大学図書館と協働して、上述の学習相談SSSの運営の他に、レポートの書き方講座や卒業研究などの学習関連のイベントを企画・開催している⁴⁾。

3. しゃべり場

しゃべり場は、学部や学年を超え、教職員も交えて、学生生活にかかわるテーマでグループトークを行うものである。参加者同士の交流を通して学生自身の学生生活に対する新しい気づきや学びのきっかけを創ることを目的としている。2022年に第1回しゃべり場を開催し、これまでに3回開催している。これまでに開催したしゃべり場のテーマと参加者数は表1の通りである。第3回は、2023年10月25日に、「徳島大学生の休日の過ごし方」をテーマに開催し(図1)、教員1名を含む12名(企画者を含む)の様々な学部・学年の学生が参加した。

表1 これまでに開催したしゃべり場

回	開催年・日	テーマ	参加者数
第1回	2022年7月14日	夏休みの過ごし方	15名
第2回	2022年10月24日	徳島大学のシラバス	10名
第3回	2023年10月25日	徳島大学生の休日の過ごし方	12名
合計			37名



図1 第3回しゃべり場の様子

4. 参加者アンケート

第3回では、しゃべり場終了後に参加者を対象にアンケートを実施し、11名から回答を得た。

図2は、4件法による設問の回答結果を示したものである。「2. 学部・学科を超えた交流ができましたか?」という設問に対し、すべての参加者が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答しており、肯定的な回答が得られた。その他の設問においても、全体的に肯定的な回答が多いことが分かる。自由記述からは、参加して印象に残った話として、知らなかったお店や留学生の方との文化の違いなどについて挙げられた。これらの意見から、しゃべり場は、普段は話することがない他学部や他学年の学生と話ができる機会となっていることが分かる。また、「誰も話していない時間がなく気持ちがよかった」という意見もあった一方で、「もっといろんな話をいろんな人と話したい」や「もう少し話す時間があってもよかった」など時間・人数配分に関する改善点も得られた。今回は、参加者を2つのテーブルに分け、それぞれのテーブルで約40分間のグループトーク実施をした。自分のテーブル内の人と話をすることしかできなかったため、このような改善点が生まれたと考えられる。

5. まとめと今後に向けて

第3回しゃべり場のアンケート結果や参加者との意見交換を踏まえ、今後の課題や改善点を考察する。「学年・学部を超えた交流が楽しかった」、「たくさん話すことができた」等のプラスの意見が多く見受けられたが、「広報が短い期間だった」、「しゃべり場は堅苦しい場ではないことを伝える」等の広報に関する課題点が挙げられていた。前者は、今回は校内掲示物や教員による授業内での告知、X(旧 Twitter)を使用した広報を行ったが、広報の開始が実施日の5日前からと遅いことや「学びサポート企画部」の認知度が低いことが原因として考えられる。後者は、ポスターやSNSに前回のしゃべり場の風景の写真が掲載されていないことが原因として考えられる。

今後は、十分な広報期間を見積もって計画を立てることと、今回のしゃべり場の写真などを活用して広報を工夫することが必要である。また企画中に席替えをすることでより多くの人と話せるようにすることを検討していきたい。

参考文献

- 1) 国立大学図書館協会 (2021) 「国立大学図書館機能の強化と革新に向けて」。
<https://www.janul.jp/ja/organization/vision2025>
(閲覧日: 2023年11月7日)
- 2) 佐々木奈三江、亀岡由佳 (2018) 「学生・教職員と共に創る学習支援の場としての図書館」、大学図書館研究、110、2023-1-11。
- 3) 仲村真樹、吉原 祥、桐畑尚真、中島由衣、佐藤孝之、國見裕美、塩川奈々美、吉田 博 (2023) 「徳島大学における学習支援 Study Support Space の存在意義」、第18回大学教育カンファレンス in 徳島発表抄録集、16-17。
- 4) 向井将馬、藤原誠哉、新免 歩、亀岡由佳、遠藤博文、上田勇仁、吉田 博 (2018) 「学生が企画する「レポートの書き方講座」の効果検証」、平成30年度大学教育カンファレンス in 徳島発表抄録集、20-21。

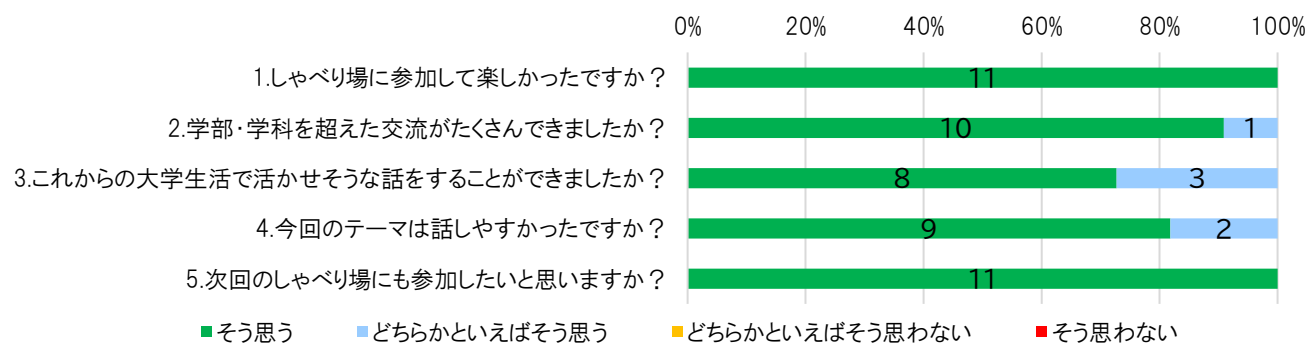


図2 参加者アンケートの回答